

敬学会賞第三十九回入選作品

最上義光

Campus®

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横野

指導の先生(高橋秀一先生)



6.1 三好正毅

目次

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 研究をはじめたわけ | - 2 - |
| 2. 計画 | - 3 - |
| 3. 内容 | |
| の義光のなぞ | - 4 - |
| ② 最上家の祖 | - 5 ~ 6 - |
| ③ 義光の歴史の | - 7 - |
| ④ 義光と三武将 | - 8 - |
| ⑤ 歌かけ船荷三丸跡 | - 9 ~ 10 - |
| ⑥ 義光の歴史② | - 11 ~ 13 - |
| ⑦ 義光の歴史③ | - 14 ~ 17 - |
| ⑧ ぎ門の結果 | - 18 - |
| ⑨ 光禪寺 | - 19 ~ 21 - |
| ⑩ 義光祭 | - 22 ~ 23 - |
| ⑪ まとめ | - 24 ~ 25 - |
| ⑫ 反省、資料と協力した人 | - 26 ~ 27 - |

1. 研究をはじめたわけ

六年生になって ぼく達は、社会科で、歴史の勉強をするようになりました。これからは、武士の世の中も学習するので、山形城主である、最上義光を調べようと思いました。義光は、霞城公園にも像があります。

郷土研究クラブに入って、義光のことも調べます。ぼくは、義光のことを急に調べたくなってきました。ぼくは義光の一生をにせぐってみようと思いこの研究をしようと思いました。

調べたいこと	予想
・最上義光の一生と、山形の動き、日本のおもな活動を書く ・それを表にまとめる ・自分が義光に対する感じ方を書く(まとめに)	義光の一生は予想できません。

調べたいことと研究の順序	どんな方法で	いつ
・最上義光の一生と、山形の動き、日本のおもなできごと(1〜10才まで)	図書館や話をきいたりして	5月ころ
・義光の墓を見学する	光禪寺にいて	9日
・義光年表	資料をもとに	8日
・歌かけ船荷、三の丸跡	歌かけ船荷にいて	〃
・その他はノートですすめる		5〜9日

最上義光の謎

義光は天文19年(1550)に生まれたとされるが

(最上時代・山形城下絵図参考) 郷土史事典には

天文15年(1546)に生まれたとされている。

はたしてこの4年間の差はなぜそんなにひらいているの

だろうか？

もう一つは義光の代がちがうことである。

歌かけ稲荷神社は十二代・義光のはかがある。光禪寺では

十一代と書いてあるがどちらが本当かわからないが調べて

おくべきことではないだろうか。

最上家の祖

カネ 兼頼	サヘ 直家	ミツサ 満直	ミツサ 満家
出羽太郎 式部丞	右京大夫	修理大夫	修理大夫
修理大夫 出羽守			
従五位下			

ミツサ 義春	ミツサ 義秋	ミツサ 満氏	ミツサ 義淳
左馬助	右馬助	九郎五郎	四郎五郎
右京大夫	右京大夫	治部大輔	左衛門佐
修理大夫			

ミツサ 義定	ミツサ 義守	ミツサ 義光
出羽太郎	修理助	源五郎・出羽守・侍・右少将
修理大夫	右京大夫	右京大夫・従五位下・従四位下・従四位上
	修理大夫	
		一女子 伊達左京大夫輝宗が室
		一義保 新ハ長瀬を称し家臣となる
		ミツサ 義久

ミツサ 義康	父 義光に讒する者ありて其間善からず慶応8年(1464)
修理大夫	害せられる
ミツサ 家親	初義親・太郎四郎・左馬助・駿河守・従五位下
	侍・従四位下
ミツサ 満氏	
ミツサ 義忠	

最上義光の歴史

①

最上義守の長男として天文15年(1546)に生まれた義光は、

のちに出羽国のは者となるだけに、小年時代から、武勇にすぐれて

いた。義光が16才のころのことである。

父義守とともに高湯温泉に湯台にいったとき、数十名の

盗賊におそわれた。近習が防ぎ戦ううち、義光はひとり

寄手の背後に回り、頭目と組みあつた。組み伏せられたが、

義光はくせず下から脇差をぬいて刺し、はね返して首をかきどった。

義守は、わが子の武勇を喜び、家宝の名刀をさすけたという。

13才にして元服し光源院義輝より、諱字をあたえられ、

義光と名のる、従五位下右京大夫に任じ、其後出羽守に改む。

ミツ ヒロ

— 光広 —

ミツ タカ

— 光隆 —

治部 内膳 家臣となり大山を称し、兄と同時に
酒井雅条頭忠世に召預けられる

— 女子 — 家臣氏家尾張国綱が妻

— 女子 — 家臣野辺沢能登満延が妻

— 女子 —

コシ トシ

— 義俊 —

コシ トシ

— 義智 —

初家信

仙徳・源五郎 刑部 駿河守

源五郎

侍従・従五位下

義光と三武将

ここで最上義光の生没年から、彼と同時代に活躍した人に注目しようと思い、戦国乱世から、ようやく全国統一をなしとげ、安土・桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した信長、秀吉、家康の3人は、義光から見ればいずれも年上であったことが下の資料でわかる。

織田信長 天文3年(1534)～天正10年(1582) 49才

豊臣秀吉 天文6年(1536)～慶長3年(1598) 62才

徳川家康 天文11年(1542)～元和2年(1616) 75才

最上義光 天文15年(1546)～慶長19年(1614) 69才

義光と歌かけ稲荷神社、三ノ丸跡 (見学)

元山形城主・斯波兼頼が山形城の守り神として、城内に建立したのがその治めと伝えられる。それから十代目? 最上義定が山形城の郭内に社殿を建てた。十二代目? 義光の時代、天童城主と開戦に際して勝利を祈願するなど、最上家代々の信仰があつた。城主や、城下の人々が、短かくに歌をかいて神社に奉納する風習があり、歌をよまない者は渡らせない橋も附近にあったところから歌かけの名が起つたと伝えられている。

③ 線のところは、看板がはがれていてわからなく、自分で考えうめたものです。

・?は、〇代目のことで、義光が11代だとすると、義定は9代となる

歌かけ稲荷神社の由来は、城主や城下の人々が短かくに歌を書いて奉納する風習や、歌をよまない者は渡らせない橋が附近にあったことから、と伝えられている。この神社西側に

残る土塁および空堀の跡が山形城三ノ丸である。

文禄年間(1592~1595)山形城主最上義光の

構築にかかり、当時の規模は広大で、南北約3.3km、東西約1.5km

に達したという。現存するのは東南方曲折部の土塁で

長さ約50mの幅は基底部で25m高さ5.4mを測り昔ながらの

樹木が繁茂し、外側(東側)には堀跡がくぼみとなって

残っている。

感想

今年の4月1日にたてたそうだから新しいので、

わかりやすくよかった。三ノ丸は、とても広かったのだらう。

最上義光の歴史

②

義光の征服戦は、まず大正二年(1574)の中野義時(義守の次子)

の討伐にはじまった。義時は父の寵を頼んで義光にかわって

山形城主になろうとしたのである。

伊達輝宗の援助をうけて兄義光と対戦し、村山地方のごう族

達も両派にわかれて争った。その後義光と輝宗が和睦すると、

義時は孤立して敗れ、自刃して果てた。

つぎに義光が攻略にかかったのは、天童氏である。

天童氏は、本姓里見氏であるが、血縁的には最上氏の庶流となっ

ていた。当時天童城山に城塞をかまえた頼久の勢力は、強大な

もので、成生から長とろ、たて岡、尾花沢、延沢にいたる「最上ハ楠」

の旗頭として戦国大名への発展途上にあつた。

天童城の攻略には義光も苦戦したが、延沢満延を味方にひき入れ

て、天正五年十月ようやく天童氏をこころよくさせることができた。

義光はさらに北進して、小国城、真空城を攻略し、

天正12年6月には谷地城の白鳥長久を謀殺した。

義光は長久の養女を長子義康の妻にむかえて

両家の提携をはかるようにみせかけ、長久を山形城に

まねいて殺害したのである。義光はただちに出兵して谷地城

を陥れ、ついで寒河江の大江氏を政めた。大江氏は、

鎌倉初頭以来寒河江庄の地頭として勢威をふるって

きたが、たか元(高基)にいたって義光に亡されたのである

またこの年には天童が落城している。先にこうぶくした

天童氏は、ふたたび離反して討伐される者とみられる。

天童頼久は仙台に落ちのびて、のちに伊達家の家臣となつて

いる。

村山、最上の内陸地方を平定した義光は、さらに天正14年5月

から庄内大室寺城主武藤おきを攻略した。

しかし越後の本庄繁長らにははばれて庄内攻略は

失敗におわった。義光はこうした状況のなかで、

天正18年に小田原北条氏を攻略しおわった豊臣秀吉の

天下統一をむかえた。義光がのぞんだ庄内は、上杉にあたえ

られたが、義光は翌年天正19年1月雄勝郡をあたえた。(上浦郡

・秋田県)をあたえられた。

義光が庄内を手に入れたのは、「関ヶ原の戦い」ののちであった。

この戦いにおいて直江兼続が長谷堂城から撤兵すると、

義光は慶長5年(1600)から翌年6年にかけて上杉勢を庄内から

駆逐し、横手城まで進攻した。慶長6年8月義光は徳川家康

からその戦功を賞れて、田川・櫛引・飽海・由利(秋田)の四郡を

加増された。五十数万石の最上氏の領国は、ここに完成したのであった。

最上義光の歴史

③

慶長3年(1598)1月、上杉景勝は秀吉の命によって、越後から会津へ転封した。越後は上杉氏にとっては、南北朝期以来250年にわたって領有し、勢力を養ってきた故国であった。

秀吉以来あれだけ大名の転封は、こうして土着性を切りはなし、兵農分離を促進する新しい政策であった。会津は蒲生氏の遺領で約92万石余、それに伊達・信夫(ともに福島県)・置賜・庄内・在渡をあわせて上杉氏は20万の大々名であった。領地の大きさは、当時徳川氏・毛利氏について第三位であった。

景勝の執政は直江山城兼続で、秀吉から、

「万事調練の武士、天下しっぺいの器量」と称揚され、特命をもって

伊達・信夫・置賜の30万石を領し、米沢に居城していた。

秀吉の死後、豊臣家臣たちは、文吏派と武将派に分かれて

反目し、遺子秀頼をささえて豊臣の天下を保持しようとしている

石田三成らと、勢望いよいよ高まった徳川家康との権争奪戦

は、さけ得ないものとなった。反石田派の武将は徳川家康になびきつつあったが、景勝は、人質を入れたりして家康に臣従することを好まなかった。ことに老臣の兼続は、「直江山城一人=而万事国の仕置る」といわれたように独裁的な権勢を振るっており、謙信以来の越後武士の武勇を誇っていた。家康の命による、西笑承兌の景勝の上洛を催促する書翰にも転封直後で領国のけい宮がいそがしく上洛のいとまはないと兼続みずから一蹴する返書を送っている。

上杉氏討伐を決意した家康は、慶長5年6月みずから大兵をひきいて

奥州に下った。七月二十四日小山(栃木)に着陣したとき、石田三成らが

挙兵して伏見城を攻略したという報告が入った。家康の東国出兵

三成らに挙兵の機をあたえて一気に攻めほろぼそうとする深謀に

ほかならなかった。上杉氏に対しては子の結城秀康らをして

あたらせ、家康は軍をかえして三成との決戦に西上した。

最上義光は、二男義親を家康の近侍とするなど早くから親しくして

あり、大坂での家康の軍議にもさんかして、背後から上杉氏を
 攻めきする手はずになっていた。上杉方からの内応のすそめを
 義光が拒絶すると兼続は先手をうって最上領攻めきを開始した。
 兼続の本隊は9月8日米沢を発し、白たか山をこえて畑谷城(山形市)
 をほういした。城将江口五兵衛は、100余名の部下とともに、げき戦
 のすえ討死した。兼続はすすんで山麓の要衝、長谷堂城の攻略
 にかかった。城将志村則俊は、峻嶒な山城と深田の地の
 利をいかして巧みに馳引きし、直江軍を悩ました。
 また義光の部将も、直江軍の背後をおそっておびやかした。中山口から
 上山城を叩ききした直江の第二軍も城将里見越後の兵に押され、抜く
 とができなかった。しかし第三軍の酒田城将、志田義孝の軍は
 最上川をさかのぼって左沢・山辺を攻略して直江の本体と合し、また
 六ヶ里越街道から進攻した大浦城将下吉忠の軍は寒河江・谷地を
 攻め落として一気に山形城を突く形勢となった。
 義光は、仙台の伊達政宗に援軍を頼み、3000の援兵を得て

山形城の防衛に死力を尽した。さいわいに九月三十日にいたって
 「関ヶ原の戦い」における家康軍の勝報がもたされ、翌年10月から
 直江軍は撤退した。直江軍との決戦は義光の生涯における
 最大の危機であった。

ぎ問の結果

最初のページのぎ問がわかりました。

最上義光の生まれた年が1546、1550と4年ほどちがっていた

のですが、ほくが本で調べてみると、同じ本にも

最上義光と上杉・伊達 などと比べているところが

あり、そこには、(1546～とかいてあったのでどうやら、1546

が正しいようです。

できれば、資料だけでなく、お寺や近所の人達からも

まいてみればいいのではないのでしょうか？

もう一つ歴代のことで1代はどうかうのですが調べて、おそらく

十一代だとは思いますが、まだ正確にはやってないかもしれ

ないのでこれもやっておきたいです。

光 禪 寺

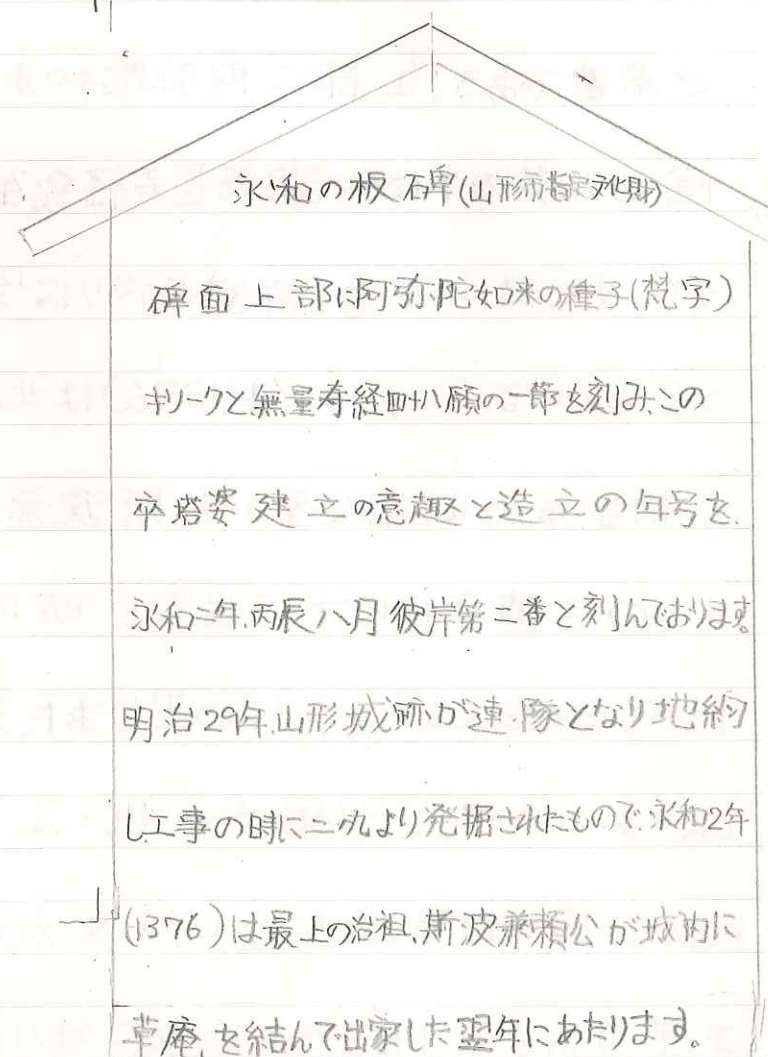
(見学)

光禪寺は、最上義光で有名な所ですが、最上義光の墓

やその他の有名な物(県市文化財など)などや、

あれば、光禪寺の税明などもかいてこようと思います。

ぎ門、思ったことなども書いてきたいと思います。



(見学)

山形市 指定文化財 (昭和43年 3月15日指定)

永和二年銘石塔婆壹基

此の石塔婆は明治29年山形城跡に歩兵第三十二連隊が
設置される時に丸東北隅から発掘されたものである。

高さ139cm(四尺二寸)の安山岩の自然石を用いた供養のための
卒塔婆である。上部に阿弥陀如来の種子(梵字)キリークを
陰刻み其の下に仏説無量寿経象生往生因四十八願の一節を
刻み、更に造立趣旨を詳記し終りに「永和二年丙辰八月彼岸二番」
と刻んでいる。永和二年(1376)は北朝の年号で南朝の天授二年
に相当すが山形城を築いた斯波兼頼(最上家の祖)が家督
をその子直家にゆずって出家し、城内の一隅に草庵をむすんで
隠居したと伝える永和元年の翌にあたるより兼頼が発願
したものであろうと推定されている。

因みに旧市内では大手町の文和4年(1355)香澄町

正樂寺および円応寺の延文二年(1357)に次ぐ古い卒塔婆

で其の時代の山形を知る貴重な考古資料である

昭和40年3日

山形市教育委員会

義光祭

昔、といっても、戦前ですが、義祭という行事がありました。

十月十八日に祭典、その前日、すなわち十七日に仮装行列が

催され、物凄くその行列を見ようと近郷左からおしかけた

何万という大群衆で山形の街はにぎわいました。

これは慶長十九年、正月十八日、六十九才を一期に山形城に

その生涯を終えた山形城主最上出羽守義光を賛仰する行事

で山形市の主催で行われましたが、大平洋戦争でそれが

途絶えてしまいました。最上義光は天文15年の正月元日山形城

で生まれ、小さい時から非常に苦しい生活でしたが、落ちぶれた

最上家を復興しようと決意、戦国争乱の世に棟を立て

奮戦力闘よく最上百万石を築き上げました。

表高は五十七万石ですが、実収百万石以上あったのでこう云われました。

その広大な領地を治める府城としての山形城とそれを支える城下町

を作ったので、県都山形中の恩人としてそれを讃えしのぶ行事で

あった訳であります。

山形の秋まつりといえは義光祭であり、それは各町内から思い

思い、だしや演芸はいうに及ばず、山形市長はじめ市の要識にあ

る方々や知名人がみんな仮装して参加する文字どおり市をおぎの

大行事でした。それが戦争で途絶えましたが戦後は新けん法

の発布を記念して「山形まつり」として復興し、それが暫くつづきましたが、

いっしかそれも消滅してしまいました。

しかし義光を偲ぶ法要や墓前祭は毎年行われ、今年もまた十月十八日

金沢市長、市村商工会議所会頭さんをはじめ多くの有志があつまって

359回の墓前祭が光禪寺でしめやかに行われました。

(初陣のことです。)

まとめと義光の感想

義光は天文15年に山形城で生れた。

義光は、ぼくの想像したのとほぼにいて、武力がすぐれていた。

父、義守がわが子の武勇を喜び家宝の名刀をさずけました。

家宝をさずかったのだから、少年時代の義光の武術はそうとうな

ものだったのでしょう。

天童城主との開戦の時は、歌かけ稲荷で勝利を祈願するなど、

最上家代々の信仰があっかった。

これは、初代兼頼から続けられているのだから、最上家では、このよう

な行事を大切にしていたことがわかります。

三ノ丸跡は、歌かけ稲荷神社のウラにあって、ビルがたちならぶ

所に、ひっそりと残っています。

今ではそれを気づく人は少なくなりましたが、当時は、

広大な規模で、南北3.3km、東西1.5kmに達したといわれています。

現在しているのは東西方曲折部の土塁で長さ50m幅は基底部で

25m、高さは、5.4mしかのこっていませんでした。

あの上杉景勝と義光は敵同士であり、関ヶ原の戦いのウラの

場面で両雄はげきとつしました。

その戦いは、仙台の伊達政宗に援軍を頼んで3000の援兵を

えて山形城のぼう衛に死力をつくしました。

さいわいに関ヶ原で家康が勝ったことをしると、撤退した。

この戦いは義光の生涯における最大の危機であった。

これほどすごい人物であり、活やくしたのだから、最上家でも、

名が高いのでしょう。

今はなき義光祭、かろう行れつだったそうですが、また、やって

ほしいな。と思います。今は、こういう義光の行事がなくなって

しまいました。この研究をしたことをほこりに思って、ぼくは

いつまでも義光をそんけいしていきたいと思います。

反省

ぼくがこの研究をするのに、とりかかりがおくれたので、

もっと他のことがわかったかもしれませんでした。

まず霞城公園の像で調べるとしたら、作るのをけい画した人、

作るのに協力した人、義光の像にかかった費用や、材料のことなど

を調べたりしてもよかったと思います。

良かったことは、光禪寺を見学して、光禪寺の由来などもわかって、なるほ

どというようなことが見学では、たくさんありました。また、写真ではとてこな

かったけど、歌かけ緋荷の由来で、義光が天童氏との関戦で勝利を祈願

していたことなども見学して調べたので大成功でした(そのこと)三ノ丸は写真

でとられなかったし、感そうをもっとたくさんかけばよかったです。

全体的にページ数が不足していたのがざんねんでした。

参考資料と協力者

ふるさと物語

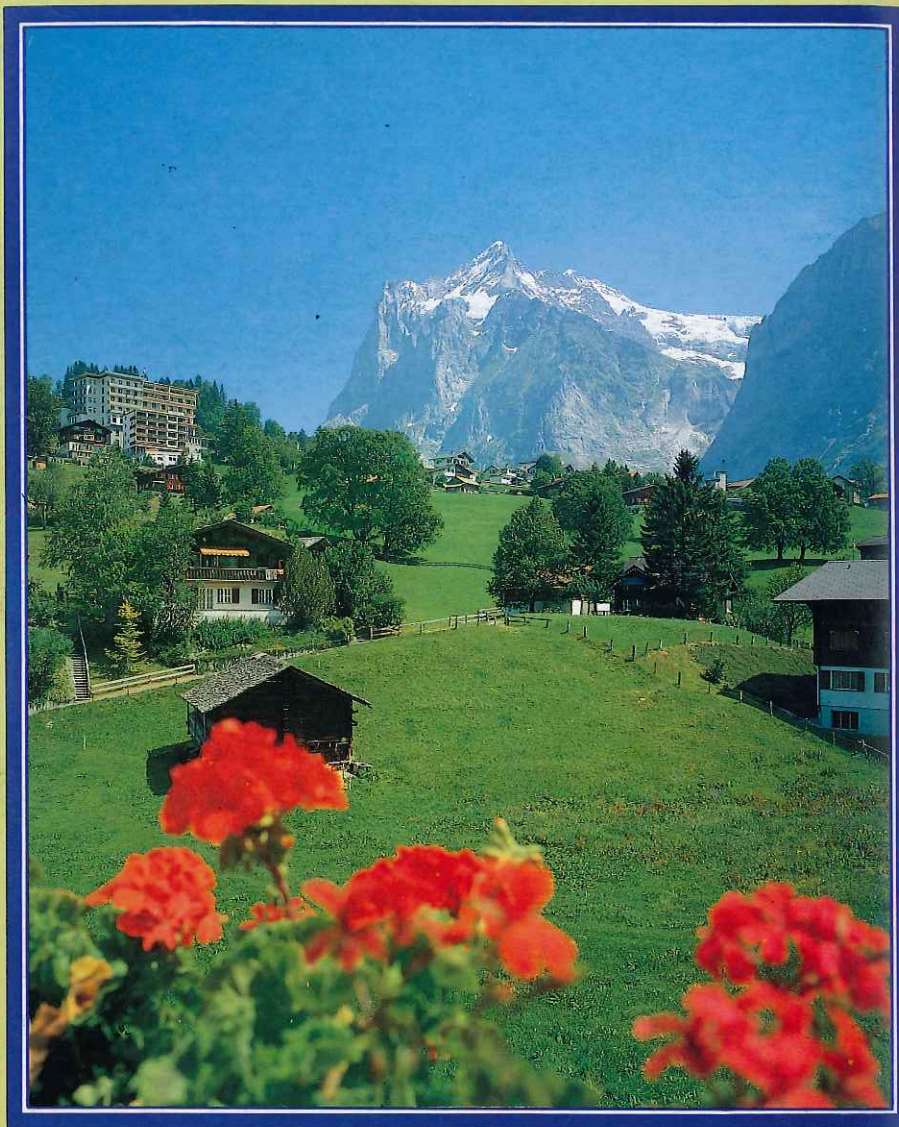
最上時代 山形 城下絵図

郷土 山形県

協力者

父

母



Our Memories

「最上義光」

6の1

三好正毅







